

# 王さまの感心された話

小川未明

青空文庫



この世界せかいが造つくられましたときに、三人にんの美うつくしい天使てんしがありました。いちばん上うへの姉ねえさんは、やさしい、さびしい口数くちかずの少すくない方かたで、そのつぎの妹いもうとは、まことに麗うるわしい、目の大おおきいぱつちりとした方かたで、末すえの弟おとうとは快活かいかつな正直しょうじきな少年しょうねんでありました。

みんなは、それぞれこの世界せかいが造つくられるはじめてのことでありますので、なにかに姿すがたを変かえなければなりませんでした。

「よく考かんえて、自分じぶんのなりたいと思おもうものになるがいい。けれど、一度姿すがたを変かえてしまつたなら、永えい久きゆうに、ふたたびもそのような天使てんしにはなれないのだから、よく考かんえてなるがいい。」と、神かみさまは申もうされました。

三人にんの姉あねと妹いもうとと弟おとうとは、それぞれ、なにになつたらいいだろうと考かんえました。姿すがたを変かえてしまえば、もういままでのように、三人にんは仲なかよくいつしよにいて話はなしをすることもできなれば、また、顔かおを見みることもできなと思おもいます。三人にんは、それが悲かなしくてなりませんでした。

気きの弱よわい妹いもうとは、目めにいつぱい涙なみだをためてうつむいていました。すると、気けだか高い、さびしい姉あねは、やさしく妹いもうとをなぐさめて、

「たとえ、遠く離れることがあつても、わたしたちは、毎晩顔を見合うことができれば、それで満足するであろう。」といいました。

いよいよ三人の決心はつきました。そうして、神さまから、おまえたちは、なにになるかと問われましたときに、

いちばん上の気高い姿の姉は、

「私は、星になります。」と申しました。

つぎの妹は、

「私は、花になります。」と申しました。

そうして、末の弟は、

「私は、小鳥になります。」と申しあげました。

神さまは、いちいちそれを聞いて、お許しになりました。こうして、三人は、ついに、

星と花と小鳥になつてしまつたのです。

星は夜ごとに空に輝きましたけれど、幾百万里となく遠く地の上から隔たつてしまつて、もはや言葉を交わすこともできなくなりました。それでも花は、夜ごとに空を向いて、星から降つてくる露を身に受けました。小鳥となつてしまつた弟は、昼間は、すぐの姉の花

のそばへいつて遊び、さえずつていましたけれど、いちばん上の姉の姿を見ることができませんでした。それですから、星が暁とともに隠れてしまう前に大急ぎで起きて、空に輝いている、さびしい姉の姿を見上げることもありました。

なんで、この三人の天使は、いままでのように、いつしよにいて楽しく暮らすように考えなかったでしようか？

それから、幾世紀はたちました。やがてこの地上をつかさどられた王さまがおります。

王さまは、いたつて勤勉な方でありましたから、太陽が出ると働き、そうして、日の暮れるまで働いて、暗くなつたときに休むような勤勉なものが、なんでも好きでありました。たとえば、ありをぐらんになると、

「ああ、ありは感心なものだ。」と思われました。

また、みつばちをぐらんになると、

「ああ、みつばちは感心なものだ。」と思われました。

けれど、王さまは、美しく咲いた花をぐらんになったとき、花というものは、いかにも怠け者だと思われました。また、星をぐらんなされたとき、星は、ああして輝いて、なん

の役にたつのだらうと思われました。また、小鳥がやかましくさえざるのをお聞きなされたとき、小鳥というものは、じつにうるさいものだと思われました。

そのとき、不思議な魔法使いが王さまのもとへ伺いました。この魔法使いは、遠い昔のことでも、またこれから幾千年の後に起こることでも、魔法によつて知ることができたのです。

王さまは、さつそく、魔法使いに向かつて、

「あの星は、いったいなにものだ。そうして、毎晩なんのために、あんな高いところで光っているのだ。」と聞かれました。

太古のことで、星や、花や、鳥や、すべてのものに対して、人々は不思議を感じていた時代であります。だから、この王さまのお問になつたのも無理はないことでした。魔法使いは広い庭に火をたきました。そうして、空に輝く星に向かつて、祈りをささげました。やがて、こうして黙っていますうちに、魔法使いは、なんでも遠い遠い、星と話をすることができるようになつたのであります。

けれど、魔法使いと星の話は、もとより王さまの耳には聞こえませんでした。

「星は、どうしてできたのじや。」と、王さまはいわれました。

「幾千年前に、三人の姉と妹と弟と仲のいい天使がありました。この世界が作られた時に、三人は、思い思いの姿に変わるように神さまから命ぜられたのであります。そうして、いちばん上のさびしい、口数の少ない姉が星となつたのであります。」と、魔法使いは、お答えを申しあげました。

王さまは、これをお聞きになつて、うなずかれました。

「しかし、ああして、毎晩、空で輝くのはなんのためじや。太陽のように暖かな光を送るのでもなく、また月のように夜路を照らすというほどでもない。なんのために夜もすがら光るのじや。」と、王さまは問われました。

すると、魔法使いは、そのことを星に問いました。

星は、魔法使いを通して、なんで自分は星になつたかということ、王さまに答えたのであります。

「王さま、この世の中には、みんな幸福なものばかりではありません。中には貧乏のものもたくさんいるのであります。そうして貧乏の家に生まれた子供は、夜は寒くて目をさまします。あるときはまた、仕事に出た父母が、とつくに日が暮れたけれど帰ってきません。そんなときは、さびしがって泣きます。私は、その子供の無事を祈らなければなり

ません。また、あるときは両親を亡くした不幸な子供があります。中には父親だけで、母親のない子供もあります。それらの子供は、夜になると目をさまして泣きます。私は、破れ家のすきまから、それらの子供をいたわってやらなければなりません。それで、私は、空の星となったのです。」と申しあげました。

この話をお聞きになると、王さまは、ほんとうに、そのやさしい心がけに感心なされました。それから星を尊まれました。

また、つぎの妹が花になり、弟が小鳥になったことを王さまに知らせますと、それをも魔法使いを通して、聞きたいと思われました。

魔法使いは、美しい花の前について、おなじように祈りをささげました。花は、魔法使いを通して、王さまにお答え申しあげました。

「私は、姉が星となりましたときに花となりました。それは、美しい着物をきて、怠けているわけではありません。人間はこの世に達者でいますうちは、たがいになぐさめもしますし、またたずねてもゆきませんが、ひとたび死んで墓にゆきますと、めつたにたずねるものもあります。私は、その哀れな死んだ人たちをなぐさめますために花となりました。そうして、昼でも、まただれもない夜でも、墓の前で靈魂をなぐさめるために香って

います。」と申しあげました。

王さまはこの言葉をお聞きになると、まことにその心がけを感心なされました。そうして、永久に花を愛されたのであります。

最後に、王さまは、魔法使いに命ぜられて、

「あの口やかましい、小鳥はなんのために？」と、そのことを小鳥に聞かせられたのであります。魔法使いは、自分の持つてゐるつえの上に小鳥を止まらせました。そうして、おなじように祈りをささげると、小鳥は語りました。

「私は、二人の姉が星と花になつたとき、小鳥となりました。それは、野山を飛びまわつて遊ぶためではありません。毎日、山河を越えてゆく旅人が幾人あるかしれません。それらの旅人は、ゆく先を急いでいます。けれど疲れて、よく眠入つてゐるものもあります。家には、子供が父親の帰るのを待つてゐるものもあります。中には、重い病氣にかかつて、早く息子の帰るのを待つてゐる年取つた親たちもあります。それらの旅人に元氣づけるために、快く朝早く目をさませるために、私は鳴くのです。」と申しあげました。

王さまは、弟が小鳥になつた心がけがよくわかりました。そして、姉も、妹も、弟も、

みんなひとびとのためをおも思つつているのをお知りになつて、ふか深く感かん心しんなされました。王おうさま

は、永えいきゆう久きゆうにことり小こ鳥とりをへいわ平へい和わのつか使つかいとされたのでありました。

それから、いくまんねん幾いく万まん年ねんかたちましたけれど、ほし星ほしとはな花はなとことり小こ鳥とりは、ひとびと人ひと々びとから愛あいせられ、

詩し人じんから歌うたわれています。三にん人にんのあねいもうおとうとあかつき姉あねいと妹と弟は、あかつき暁あかつきのある一ひととき時ひとときを、ものものこそいわないが

顔かおをあ合あわして、永えいきゆう久きゆうにいきいきとして、たがたがいになぐさめ合うのでありました。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 二 講談社

1976（昭和51）年11月10日第1刷

1977（昭和52）年C第3刷

初出：「まなびの友」

1920（大正9）年12月

※表題は底本では、「王《おう》さまの感心《かんしん》された話《はなし》」となっています。

※初出時の表題は「王様の感心された話」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2013年9月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 王さまの感心された話

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>